

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光振興事務
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報ホームページについて、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら適切に管理した。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報をリアルタイムで正確に提供した。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図った。 ・観光施策事業推進に資するデータや情報等収集のため、情報誌（観光新聞等）を購入。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料 660,000円 ・情報誌定期購入代（年額：観光経済新聞） 14,300円 ・通信運搬費（観光パンフレット等郵送料） 17,370円
事業の成果・効果	観光振興・観光宣伝において、犬山観光情報ホームページは、観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり、「犬山観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内ではイベント告知をはじめ、公共駐車場利用状況など、様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ常に見やすさ、わかりやすさに配慮しながら情報更新するなど、観光振興における重要な役割を果たすことが出来ている。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

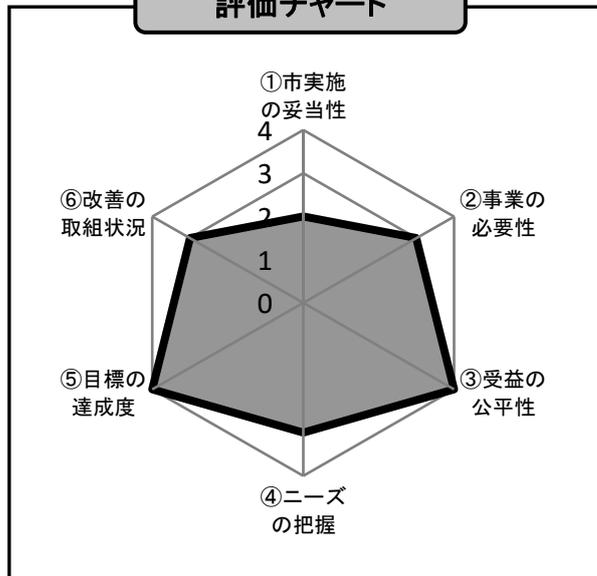
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光振興事務	825	0	825	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	825	0	825	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		818	825	817
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	818	825	817
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多様で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	3	普段より市、観光協会で定期的な検証も行いつつ、城下町を中心とした住人、事業者等にも意見を聴取し、その集約に努めている。
⑤目標の達成度	4	今年度は、コロナ禍前と比べ概ね同等の集客で、多くの催事について、リアルタイムで旬な情報を掲載することを常に心がけた。大きなトラブル等は無く事業遂行できた。
⑥改善の取組状況	3	観光振興の事務の効率化と、費用対効果を踏まえつつ、コスト意識を持ち実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	ホームページに関しては内容の精査を随時行った。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで観光客にとっても、市民にとっても理解と関心及び親和性を高める内容となるよう市・観光協会で協議・工夫して魅力的な情報発信を心がけた。
令和6年度に見直しを実施している事項	令和6年度中を目標に、観光協会にて犬山観光情報ホームページの見直しを検討している。今まで以上に見やすい情報集積と発信を念頭に、犬山の観光情報の玄関口として充実したサイトとなるよう内容の精査を行う予定である。
今後見直しを検討する事項	細かな催事情報を出来る限り集約して分かりやすく発信できるスキームの構築を検討する。城下町だけでなく、市域全体の観光に関する情報を随時適切に提供できるようSNSの活用も含め手法や体制についても検討を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	ホームページについては見直しを行い、内容の精査を進めることに注力する。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高め犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。市や観光協会主催事業以外の情報集約と発信についても検討を行う。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	293

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光協会運営補助
事業目的	観光振興に必要な知見とノウハウを有する(一社)犬山市観光協会に対して運営費補助を行う。国内では近傍地から広域に向けた観光誘客・宣伝・広報活動を実施。海外ではメディアセールス等を行いコロナ後において徐々に回復するインバウンド需要の取込みを推進。また持続可能な観光地を目指し課題改善に取り組む「SDGs観光まちづくり」を推進する中核的な役割を市とともに担うことで市単独では成し得ない観光施策の充実を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○犬山の観光推進に関する体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光振興のため、観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光戦略への挑戦、近傍～広域圏の観光誘客、招聘等、観光を通じたまちづくり等、法人ならではのスピード感と機動力を活かした観光推進の実現を図った。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬山市観光協会運営補助金 27,392,603円
事業の成果・効果	(一社)犬山市観光協会は、信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織の強みを活かし観光振興を進めており、市という公共の団体だけでは成し得ない宣伝・営業活動を行うことができている。幅広い事業展開も可能にしており、現在は香港、台湾などのアジア圏を中心としたインバウンド需要への適切な対応やセールスを実施。国内誘客・宣伝も充実出来ており広報についてもメディア掲出も頻度高く実現することで多くの観光誘客や認知度向上を果たしている。また犬山祭や花火等催事の実施や持続可能な観光まちづくりの為の各種取組みにおいても市と一体となって実施しており、現在の犬山観光の中核としての役割を担っている。

II : 個別事業内訳

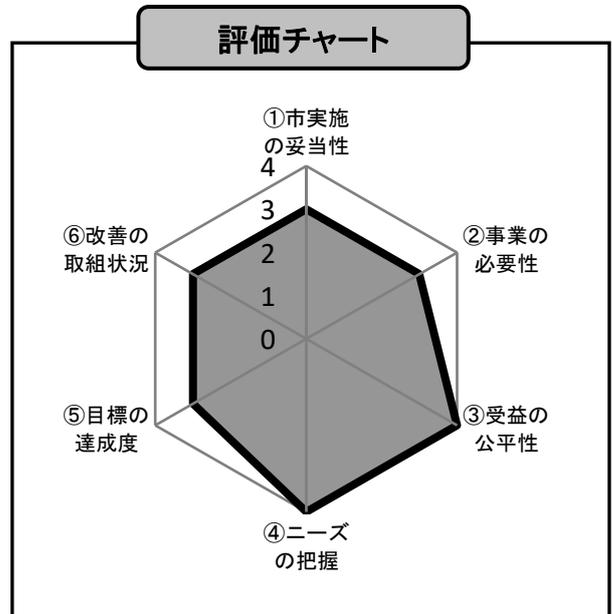
(単位:千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光協会運営費補助	27,393	0	27,393	100%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27,393	0	27,393	100%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		26,454	27,393	28,311
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	26,454	27,393	28,311
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光協会は、市単独では実施不可能な迅速かつ確かな誘客・宣伝活動を実現するために必要不可欠であり、公益的な役割も果たしている為、組織として安定し持続可能な体制となるよう、市が運営を支援する必要がある。
②事業の必要性	3	犬山の観光施策を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業であり、中心的役割を担う協会の存続は必要性がある。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町や内田地区等での地区住民との意見交換や、事業者対象の宣伝事業説明会等を通じて、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	3	一般社団法人としての責任感、使命感を持って観光宣伝事業や自主事業等を行い犬山観光を前進させている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	犬山市観光戦略に基づき、観光協会の役割・事業内容の精査を随時行った。取り分け「SDGs観光まちづくり」については、観光協会の今後の主要な活動として強く意識し取組むことができた。コロナ後での宣伝活動も積極的に実施することが出来た。
令和6年度に見直しを実施している事項	魅力的な観光コンテンツを市と観光協会が連携し事業者も巻き込みながら企画し造成を進める。加えて観光協会が観光振興・観光まちづくりの中核として更なる存在感を高められるよう、役割・内容・組織体制も含め精査・検討を進める。
今後見直しを検討する事項	観光宣伝や広報活動、インバウンド需要の取込み及び新規観光コンテンツ造成を市と連携しながら(一社)犬山市観光協会が中心となって進め、宿泊者数と消費額の増加を図る。加えて観光振興の中核としての役割を果たす為、観光協会の組織体制強化を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光を切り口とした「地域づくり」が進むよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	新たな収益事業の実施等、自主財源の確保に向けた取り組みを推進するなど、安定的な運営に向けた連携・指導を行う。加えて持続可能な観光地を目指した「観光まちづくり」推進の中核として役割を果たせるよう、地域での存在感を増していくことを期待する。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	(一社) 犬山市観光協会と連携した観光プロモーション等の宣伝・広報活動の実施、各種協議会との協働による広域観光を通じて犬山観光の価値と魅力を高めるとともに、ブランド力を向上させ、全国から犬山への観光誘客を図る。特に首都圏・関西圏の認知度向上と誘客を推進。また持続可能な観光まちづくりの為、受け入れ体制の充実や必要な取組みを進める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じた観光誘客宣伝活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道(株)、犬山市観光協会と連携し、年間を通じた観光誘客宣伝活動を実施。 ○まつり・催事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山祭保存会等と連携し犬山祭を実施、秋は犬山祭宣伝事業としてからくりまち巡りを実施。 ・各務原市等との実行委員会にて日本ライン夏まつりロングラン花火を実施。 ○観光展やイベント参画、海外セールス等による観光誘客・宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・県内、首都・関西圏で集中キャラバン、鉄道駅を活用した観光宣伝、近傍地で誘客活動実施。 ・アジア圏を中心にセールス活動を行いインバウンド需要の取込を促進。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・県、各種協議会、他市町との連携による観光宣伝、集客イベントを実施。 ・国宝五城を中心に広域連携によりお城フェスなどへ積極的に参画。 ○観光客の受入体制の構築と持続可能な観光まちづくりの取組み <ul style="list-style-type: none"> ・城下町中心に交通誘導体制を整え道路の混雑緩和と円滑な観光客の誘導を図った。 ・持続可能な観光まちづくりの為の取組みを実施。 ○観光コンテンツの造成 <ul style="list-style-type: none"> ・(一社) 犬山市観光協会と連携し、市民が担い手となる体験型コンテンツ造成支援や、事業者、市、観光協会自身がコンテンツ造成を促進。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町交通誘導警備委託料30,898,230円 ・各協議会等負担金 50,751,679円 (飛騨木曾川、国宝城郭都市、犬山観光プロモーション協議会等) ・団体補助金 350,000円 (桃太郎あゆまつり催事)
事業の成果・効果	令和5年度はコロナの影響が減じ犬山祭や日本ライン夏まつり等の催事を予定どおり開催出来た。お城がテーマのイベント出展も積極的に行い、本市の強みを活かした誘客宣伝活動となった。広報活動も順調でテレビ放映や雑誌掲載など数多く実現した。インバウンド需要の取込みは台湾等を中心に積極的なセールス活動を実施し外国人観光客の大幅増加に繋がった。大河ドラマに因んだ宣伝・広報活動も時機を捉え実施した。県内、木曾川流域、国宝五城、各務原市連携等、広域イベントや誘客活動も充実した。市民が担い手のコンテンツ造成や花手水等の自主事業は時間を要するが徐々に拡がりを見せることが出来た。持続可能な観光まちづくりの実現の為、警備体制の強化や仮設休憩所の設置等受け入れ環境の整備推進とともに関係団体による「SDGs観光まちづくり会議」を立上げ、課題の把握と共有、必要な取組みについて議論を深めることが出来た。

II : 個別事業内訳

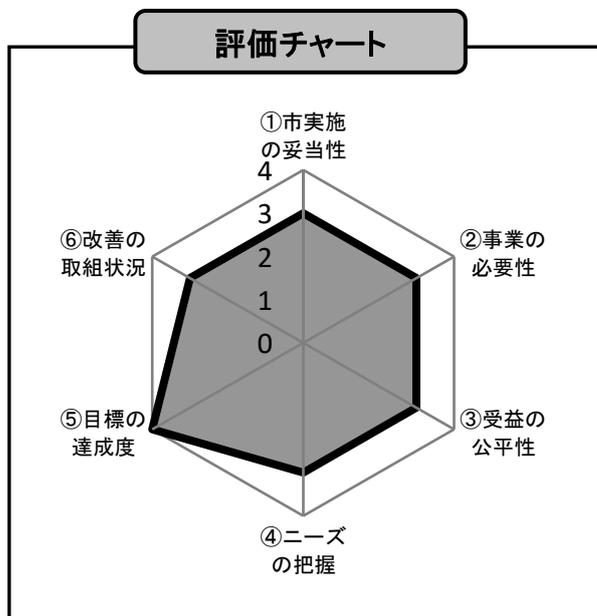
(単位: 千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光客誘致	85,348	56,087	29,261	34%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	85,348	56,087	29,261	34%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		63,951	85,348	94,573
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	56,087	56,087	45,479
	一般財源	7,864	29,261	49,094
一般財源の割合		12%	34%	52%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客を呼び込むだけでなく、住民が誇れるまちづくりに資する取組が必要であり、市が主体となって実施することが望ましい。
②事業の必要性	3	観光振興による市域全体の活性化を目指すことで、市民が広く益を享受するものであり、事業継続の必要性がある。
③受益の公平性	3	観光客を誘致し交流人口が増えることで、市内における消費活動が活発に行われ、市域での経済的効果をもたらし、市民全体に恩恵がある。
④ニーズの把握	3	観光プロモーション参加店舗説明会にて意見交換を行うなど、ニーズと課題の把握を行っている。また、観光コンテンツ造成推進事業で担い手・利用者から聞き取りを行うなど課題把握に努めている。
⑤目標の達成度	4	今年度は、特に「お城に興味がある」という強い動機を持つ観光客へのプロモーションとして積極的に横浜や姫路などで開催された催事に出席できた。また城下町地区を中心に来訪者もコロナ禍以前と同程度に増えるなど、観光需要の高まりが見られた。
⑥改善の取組状況	3	新たな観光宣伝事業の妥当性、経済性、安全性及び、持続可能な観光まちづくりという概念を常に考慮しつつ、今後も積極的な観光振興を展開していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	コロナ後の状況に応じた誘客・宣伝の実施及び持続可能な観光まちづくりを目指す取組により、観光地犬山として課題の把握と対応の検討を進めることが出来た。
令和6年度に見直しを実施している事項	効果的な広報宣伝活動やコンテンツ造成を進め観光地の魅力を高め誘客と消費増加を図る。城下町地区を中心とした課題改善に向け、SDGs観光まちづくり会議を開催し必要な取組を進めるとともに、期間限定でのゴミ箱や仮設休憩所設置や道路美化等の取組を更に充実する。
今後見直しを検討する事項	業務全体の見直しを行い犬山観光の質の向上を図る。観光協会と連携し効果的な広報・誘客・宣伝活動やコンテンツ造成を進め宿泊者数と消費額の増加を目指す。城下町地区を中心とした課題改善のため受入体制の充実を図るとともにマナー啓発や意識向上等の取組、事業者の繋がりづくり等の取組も進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の実施内容精査。広域連携の効果的な事業内容の検討。城下町地区を中心としたSDGs観光まちづくりの推進。	広域連携に関しては犬山市の強みを活かした取組を中心に進めていく。観光まちづくりについては、市、観光協会をはじめ各団体、民間事業者とも引き続き連携して持続可能な仕組みを検討した上で各団体が持つ強みを活かした役割分担を整理し取組を推進していく。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正な管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅及び犬山城前の2カ所の観光案内所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内の実現を図った。 ・運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する（一社）犬山市観光協会に対し委託業務として発注。国内外からのお客様に対し適切に対応。安定的な管理体制を実現。 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山観光案内所運営委託料 20,280,440円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅及び城前の2箇所で観光案内所を設置し運営している。コロナ後は来訪者数も増加しており、特に外国人観光客の増加も多く見られ、適切で丁寧なおもてなしを実現し来訪者の満足度向上に努めている。

II : 個別事業内訳

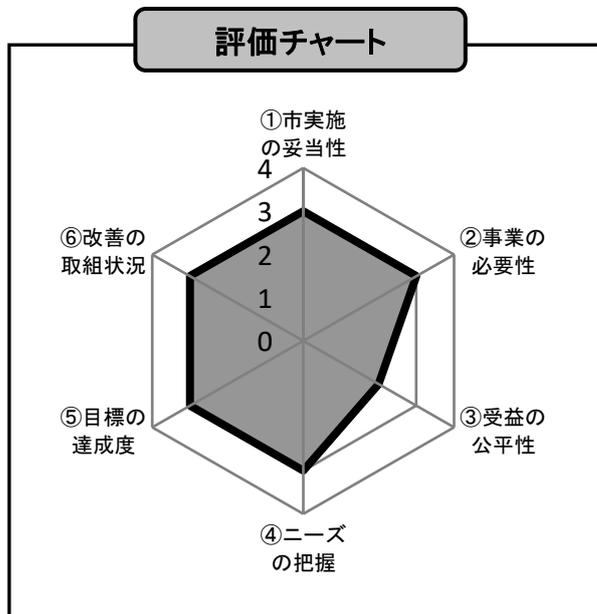
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光案内所運営	20,421	20,421	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	20,421	20,421	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		20,125	20,421	21,301
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	20,125	20,421	21,301
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の玄関口にもなる観光案内所は、観光地には必須であり、情報発信とおもてなしの場として市が主体として実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、ストレスなく快適な観光を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所を訪れるのは、多くが観光客であるものの、市民も参加するイベントや、市民・観光客に関わらない多様な情報発信を行っており、市民も恩恵を受けている。
④ニーズの把握	3	2つの観光案内所には観光客からの多くの意見・提言が寄せられ、その都度、市、協会の双方で共有、対応し改善に努めている。
⑤目標の達成度	3	丁寧な対応や接客を常に意識し、観光客だけでなく、訪れる方の満足度の向上を図ることができている。
⑥改善の取組状況	3	観光客に対する玄関口だけでなく、今後も、市民も広く利活用できる場としての位置づけとして検討が必要である。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	城前観光案内所内、多目的スペースにて夏と春に観光コンテンツの体験フェアを開催した。従来のインターネットを介した申し込みだけでなく、偶然訪れた観光客が直接申し込みするなど、新たな誘客と利活用の可能性を図ることができた。またコンテンツの内容も充実することが出来た。
令和6年度に見直しを実施している事項	令和6年度も引き続き、多目的スペースを観光コンテンツの体験場所とするなど、観光案内所が情報発信の場としての役割だけでなくコンテンツを体験できる場、市民が活躍できる場としての機能を高められるよう取組みを進める。
今後見直しを検討する事項	城前案内所は、情報提供・休憩等、多様な機能を有した観光交流拠点として更に充実させる。城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、自然資源等へのアクセスが円滑になるよう、自動車・自転車・タクシー等も含めた移動の拠点としての機能充実を図る。多目的スペースの活用で市民の活躍の場となるよう努める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
新たな観光コンテンツの造成に関連して、より多くの市民の方が活躍できる仕組みを構築すること。	観光案内所は情報発信・提供、休憩機能など多様な機能を有しており観光客の利便性と満足度向上に資する施設として役割を担っているが、今後は魅力的で何度も訪れたい観光地となるため、「体験できる場」としての機能も確立していく必要がある。そのためには、市民も観光に携わっているという意識を実感できるような仕組み作りが重要である。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光施設管理
事業目的	観光トイレ、園地等広場、及び観光案内看板等、施設の維持管理を適正に行うことで、受け入れ体制を整え、観光地としてのイメージを高めるとともに、来訪者の満足度を向上させる。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を確保した。 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 <ul style="list-style-type: none"> ・観光トイレ等の清掃を始め維持管理を通年で行うことで清潔さを保ち、観光客の利便性を確保。 ・破損等が生じたトイレの修繕を適切に実施。 ○観光施設の除草剪定等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の除草剪定作業を定期的に行い、施設の適切な維持管理に努めた。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆便所、観光施設等修繕料 3,033,800円 ・観光施設除草剪定業務委託料 2,992,000円 ・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料 9,558,419円
事業の成果・効果	観光客のおもてなしにおいて、観光施設の適切な維持管理は必須である。清掃や除草剪定等の日常の維持管理はもちろんのこと、トイレの不具合等への迅速かつ的確な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正に管理を行うことができた。

II : 個別事業内訳

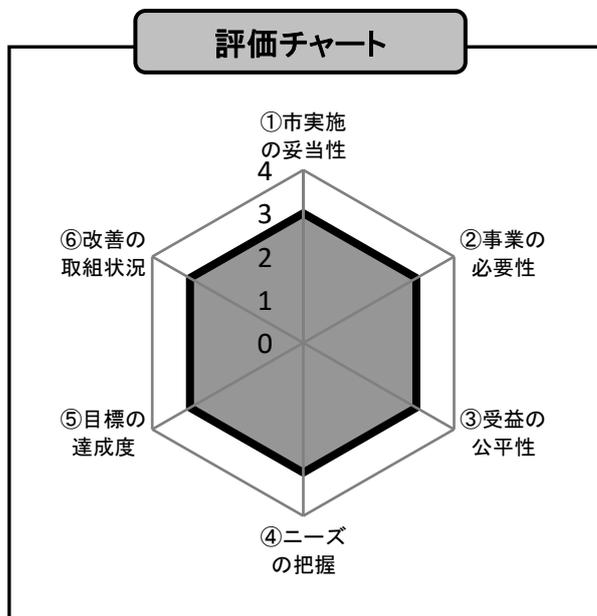
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光施設管理	19,890	19,890	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,890	19,890	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		16,094	19,890	21,358
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	16,094	19,890	21,358
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため市が主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実は必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現出来ている。
④ニーズの把握	3	施設利用者や観光関係者、施設受託者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	公衆便所等の観光施設は維持管理を適切に実施出来ている。また、公衆便所は計画的に洋式化を行っている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	市内に設置している観光案内看板の状況確認や再点検を実施した。また老朽化した看板等は適宜修繕を行うことができた。
令和6年度に見直しを実施している事項	犬山市が進める公衆トイレの洋式化計画に基づき、観光課所管の公衆トイレについても順次洋式化を進める。
今後見直しを検討する事項	公衆トイレや案内看板など、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分精査し計画・実践を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	293

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興において、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用するため、入湯税の一部を積み立てする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に必要な経費を適切に積立するとともに、必要な事業が発生した際に活用する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てた。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合に基金の一部を取り崩して活用。
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立てている。令和5年度は、令和4年度から繰越しを行った国道41号線の案内標識設置工事を実施し、取り崩しを行った。基金の原資となる入湯税は、ホテルインディゴ有楽苑が開業したこと、及びコロナ禍を経て宿泊者数が増加したこともあり、令和4年度と比較して増額となった。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

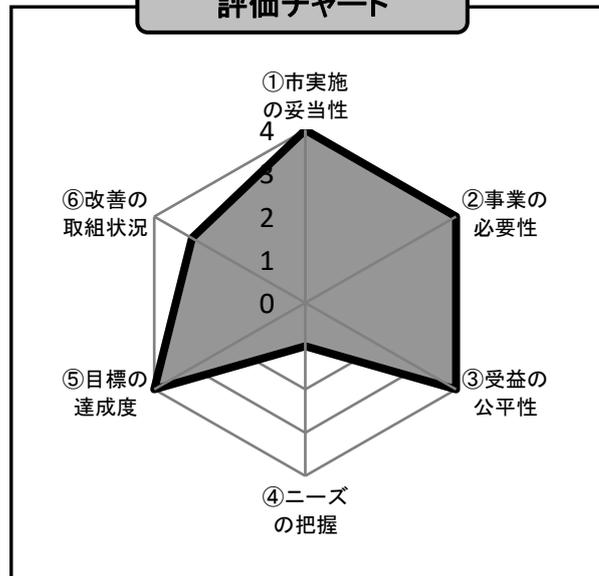
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光事業振興基金積立金	3,131	3,131	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3,131	3,131	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		745	3,131	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	745	3,131	0
	一般財源	0	0	1
一般財源の割合		0%	0%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済状況が悪化した時においても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の使途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	令和5年度は、国道41号線6車線化工事の進捗状況に合わせて令和4年度から繰越した案内標識設置工事に基金を活用した。
令和6年度に見直しを実施している事項	令和4年度に彩雲橋公衆トイレの改修を行い、基金を活用したこと等により残高が減少したが、今後は宿泊者数の増加による入湯税の増額を図り、基金の積み立てを促進したい。
今後見直しを検討する事項	将来における観光施策の実施に必要な事業費を確保するため、基金に計上する財源として入湯税だけでなく、観光駐車場使用料など他の財源を含めることも検討する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。	基金の安定的な積立のため、駐車場使用料などの基金積み立ても含めて中長期的な視点で見直しを検討していく必要がある。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	295

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市及び木曽川観光(株)との連携・協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策を始め、鵜の健全な管理を継続して行った。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承及び観光資源としての活用のため、持続可能な体制を継続して検討。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し次代を担う人材を継続して育成。 ○座敷鵜飼等の高質化 <ul style="list-style-type: none"> ・座敷鵜飼の内容を工夫し見応えのある演目となるよう質を高める内容を検討した。 ○屋形船(若あゆ丸)の改修に伴う高質な商品の造成 <ul style="list-style-type: none"> ・屋形船の改修に伴い、高単価で高付加価値のある商品造成を行い、価格も見直しを行った。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川うかい事業費特別会計繰出金 54,835,000円
事業の成果・効果	<p>「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。鵜飼観覧者数は、令和5年は新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあること、比較的天候にも恵まれたことから、前年比21.6%増の16,722人となった。</p> <p>船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果があった。</p>

II : 個別事業内訳

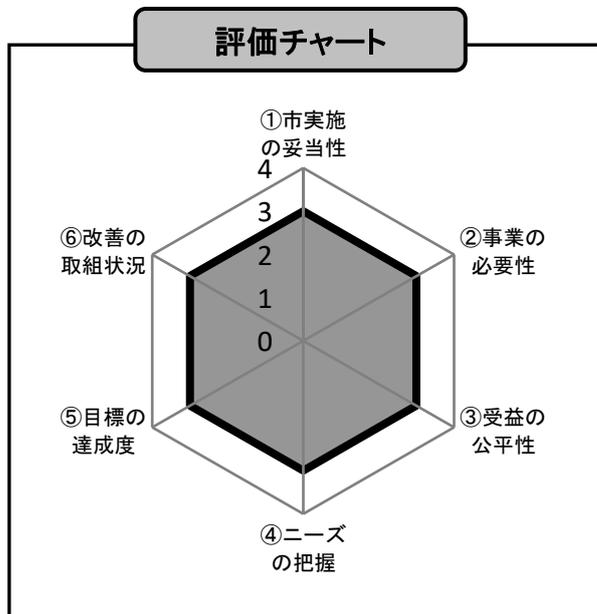
(単位: 千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
木曽川うかい事業費特別会計繰出金	54,835	54,835	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	54,835	54,835	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		48,572	54,835	61,759
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	48,572	54,835	61,759
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曾川鵜飼漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鵜飼などの実施により、市民により身近に感じてもらえる鵜飼を目指し、毎年実施している。令和5年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鵜舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曾川河畔の活性化にも鵜飼は貢献し、城下町地区から木曾川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	鵜飼実演の内容の見直しや、当市所有の屋形船である「若あゆ丸」が改修されたことにより、新たな利活用を検討し、利用料金も見直しを実施。少額でも歳入増を目指していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	市所有の屋形船である「若あゆ丸」の高質化改修後、新たな利活用による料金体系を構築し、屋形船を活用した高質な観光コンテンツの造成を進めた。また、鵜飼実演の演目の見直しを検討。内容を充実させた高質化仕様の設えとなるよう取組みを進めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	高質化された屋形船の積極的な営業を木曾川観光(株)と連携し進めていき、鵜飼観覧を始めとする川遊びの高質化を進め、市の歳入増にも努めていく。また、鵜飼実演の高質化した座敷鵜飼を令和6年度に披露し、市の歳入増に努める。
今後見直しを検討する事項	鵜舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、鵜匠の後継者問題など、木曾川うかい事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舎や鵜仮小屋、鵜飼トラックなどハード面の老朽化に伴う更新。鵜匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曾川うかいは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鵜舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時検討を実施していく。また、鵜匠の後継者の課題については、今後4年の間に方向性を定めることとしており、雇用・育成の在り方も含め検討を進める。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光駐車場管理						
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場を一体的に管理運営することで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的かつ円滑に受け入れ渋滞緩和や混雑改善を図るとともに、利用料による自主財源の確保を図る。						
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○キャッスルパーキングと内田観光駐車場の一体的な管理運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッスルパーキング及び内田観光駐車場を効率的に運営。 ・キャッスルパーキング満車時には内田観光駐車場へ誘導し混雑緩和を図るなど適切に管理。 ・混雑時には内田多目的広場を利活用し利用料を得て自主財源確保に努めた。 <p>●主な決算の内訳</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>・消耗品費</td> <td style="text-align: right;">486,852円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">224,400円</td> </tr> <tr> <td>・観光駐車場管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">29,094,555円</td> </tr> </table>	・消耗品費	486,852円	・修繕料	224,400円	・観光駐車場管理業務委託料	29,094,555円
・消耗品費	486,852円						
・修繕料	224,400円						
・観光駐車場管理業務委託料	29,094,555円						
事業の成果・効果	城下町地区にある2か所の公共駐車場(キャッスルパーキング、内田観光駐車場)の使用料については、令和5年度は対前年比2.5%増となる約107,837千円となった。駐車場の維持管理及び運営については、周辺の交通渋滞や混雑を緩和するため、受託事業者と連携し、観光車両の円滑な誘導を行うことで、地域住民の生活への影響を軽減することに努めた。						

II : 個別事業内訳

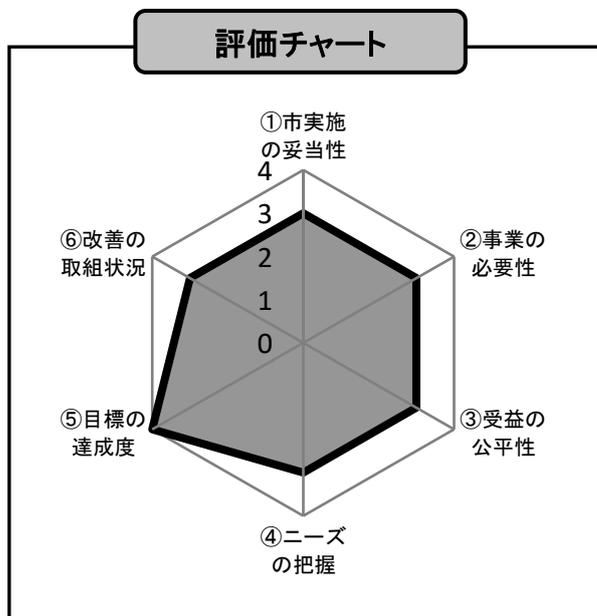
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光駐車場管理	30,629	30,629	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,629	30,629	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		28,280	30,629	32,608
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	28,280	30,629	32,608
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	3	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	観光客(利用者)や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	4	コロナ禍からの本格的な回復だけでなく、コロナ以前の水準に達しており、利用者数は増加傾向である。
⑥改善の取組状況	3	駐車場の使用料の見直しの検討を進め、令和6年度に試験的に実施できるよう条例改正などへの対応も進めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	財源確保と混雑改善の観点から、観光駐車場の使用料見直しについて検討を行った。
令和6年度に見直しを実施している事項	観光駐車場(キャッスルパーキング東・西、内田観光駐車場)の使用料見直しについて、条例改正の上、試験的に実施し効果検証を行う予定である。
今後見直しを検討する事項	駐車場使用料見直しによる効果・影響の精査を行う。また駐車場税導入の是非についても検討を進める。加えてキャッスルパーキング及び内田観光駐車場の連携による円滑な誘導体制の更なる構築を検討し、課題の改善を図ることで持続可能な観光地づくりを推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
繁忙期における渋滞時の周辺地区住民への影響を最小限に抑える適切な対応の検討・実施。及び駐車場の使用料変更に伴う検証。	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多くあるため、引続き受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。また、安定的な観光施策推進のため財源確保は重要な観点であり、令和6年度の実施を検討している駐車場使用料の変更についても、最適な運用スキームを検討する。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	289

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光戦略
事業目的	令和3年度策定の犬山市観光戦略に計上した各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組みを構築する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○観光戦略の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点プロジェクトの検討及び実施、各種調整及びマッチングの取組みを推進。 令和5年度は戦略策定から2年目となり、戦略の進捗や内容に関し観光戦略会議委員から助言・提案を受ける機会として、8月に観光戦略会議を開催した。 <p>○観光まちづくり会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光を切り口とした課題解決に向けた会議の継続開催。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光戦略会議委員報酬 43,200円 観光戦略会議委員旅費 49,460円
事業の成果・効果	犬山市観光戦略に計上した各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業内容の精査や把握、見直しができるような体制と仕組み構築を図っている。令和5年8月に開催した犬山市観光戦略会議では委員から助言・提案を受け、その後の施策展開に活かすことが出来た。

II : 個別事業内訳

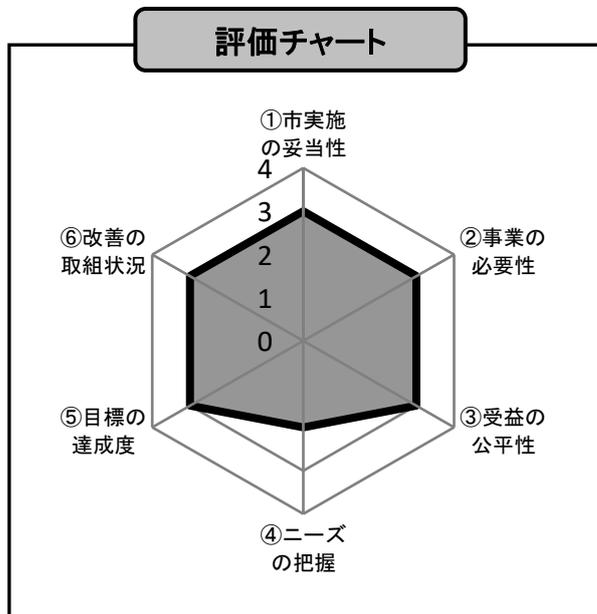
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
観光戦略	93	93	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	93	93	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		300	93	180
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	300	93	0
	一般財源	0	0	180
一般財源の割合		0%	0%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	本市が策定した犬山市観光戦略であり、関係部署・機関と協議や連携しながら展開していく必要がある。
②事業の必要性	3	持続可能な観光まちづくりを実現するため、有識者等に評価・検証を受けることで犬山市観光戦略のPDCAサイクルを着実に推進していく必要がある。
③受益の公平性	3	市民にとって郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する取組みである。
④ニーズの把握	2	犬山市観光戦略の策定時に観光客へのアンケート調査及び位置情報データを活用した調査を実施し、ニーズの把握に努めている。
⑤目標の達成度	3	進捗把握及び評価のために附属機関である観光戦略会議を令和5年8月に実施した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	令和4年度より開始した「犬山市観光戦略」に基づき、初年度の振り返りと有識者からの提言・助言を得るために観光戦略会議を開催した。委員からは現在進めている事業や今後進むべき方向性についての助言や意見をいただき施策推進に活かすことが出来た。
令和6年度に見直しを実施している事項	令和6年度においても犬山市観光戦略に基づき、各事業はPDCAサイクルの中で適宜見直し、検証を行う。
今後見直しを検討する事項	犬山市観光戦略会議は定期的に開催予定であり、その都度、進捗や状況について助言・提案を受け、施策の見直しや改善を図ることとなる。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光戦略の課題の一つである「観光客と住民の調和・共存」の為の取組みを住民、事業者、団体等も巻き込みながら推進する必要がある。	令和3年度末に策定した犬山市観光戦略の各施策を推進するとともに、進捗状況を確認し、PDCAサイクルの中で事業が確実に推進できるような体制と仕組みを構築して持続可能な観光まちづくりを実現する。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	291

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川河川空間活性化
事業目的	木曽川河畔の栗栖地区、及び内田地区のそれぞれにおいて整備等の取組みを進め、木曽川河川空間の価値と質を高めることにより、市民及び観光客が楽しむことができる、賑わいと憩いの場を形成する。加えて新たな価値と利益を生み出すことを目指す。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栗栖園地南側の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川河川敷内、栗栖園地南側の土地の造成（整地）と一部芝貼りを実施。 ○木曽川河畔遊歩道整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の整備・利活用に向け河川管理者（木曽川上流河川事務所）と協議・調整を実施。 ・令和6年3月に地元住民との意見交換会「河畔でカタリーヴァ」（ワークショップ）を開催。 ・実証事業の一環として令和5年8月の宵のいぬやマルシェや11月の木曽川朝市に地元住民と協働で出店を行った。令和6年3月には「河畔でおためし大作戦！2024」としてライトアップ事業等を地元関係者及び団体とで実施した。 ・「かわまちづくり計画」の策定に向け必要な情報収集等の事前調査を実施。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗栖園地整備工事請負費 2,497,000円 ・木曽川河畔活性化支援事業実施委託料 2,926,000円
事業の成果・効果	木曽川河畔の栗栖地区において栗栖園地の整備を実施し園地の拡充を進めた。内田地区では彩雲橋公衆便所改築が完了。木曽川河畔遊歩道の整備に向け地元住民と協働で模擬店の出店、ライトアップ等の実証事業を実施。少しずつではあるが木曽川河川全体における価値と質を高め、美しい景観と良好な河川空間形成の実現に向けた事業を進めることが出来た。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

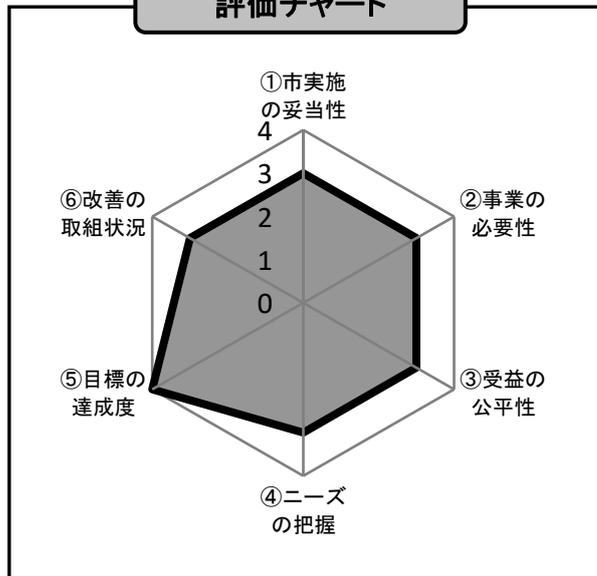
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
木曽川河川空間活性化	6,287	2,995	3,292	52%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	6,287	2,995	3,292	52%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		53,934	6,287	27,182
財源内訳	国県支出金	0	2,995	0
	地方債	0	0	0
	その他	24,994	0	12,300
	一般財源	28,940	3,292	14,882
一般財源の割合		54%	52%	55%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	河川の占有者は犬山市であり、河川敷内の維持管理及び事業展開を市が適切に実施することで良好な河川空間の形成が実現すると考える。
②事業の必要性	3	新しい河川空間の形成により、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げ、賑わい創出に資する取組みである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	内田でのワークショップ及び栗栖での芝張り体験を実施する中で、市民の意見の収集が実現している。市民参加型の取組みとなることでニーズの把握にも努めている。
⑤目標の達成度	4	内田での実証事業とワークショップ、栗栖園地での整備を実施したことでいずれも目標に達している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	将来に向け木曾川河畔内田地区の整備については、令和5年8月に「犬山市木曾川河川空間整備 基本構想」を取りまとめ、時勢や状況等を踏まえ3つのプランを取りまとめることが出来た。
令和6年度に見直しを実施している事項	河畔の整備に向けて、国からの支援を得ることも視野に、令和6年度より「かわまちづくり計画」の策定準備や地質調査を実施する。また地域住民との協働により河畔での実証事業、ワークショップなどを継続して実施する。
今後見直しを検討する事項	河畔整備について、今後様々な調査・結果を踏まえた上で整備の方針を決定し事業を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
木曾川河畔遊歩道の整備は河川内かつ道路であることから整備方針や施工方法、さらには管理方法等についても関係機関との協議を進めていく必要がある。	木曾川河畔遊歩道の整備については、犬山城下町周辺の観光ルートの回遊性を高めるために市民及び観光客にとって、郷土への愛着醸成及び本市の観光資源の磨き上げに資する非常に重要な施策である。美しい景観と良好な河川空間形成を実現できるような様々な実証事業を展開するとともに、市民との意見交換も踏まえ効果を測りながら推進していく。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)
木曽川うかい事業費特別会計	453

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市及び木曽川観光(株)との連携・協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施。 ○鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策を始め、鵜の健全な管理を継続して行った。 ○鵜匠の育成(男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員) <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制を継続して検討した。 ○船頭の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統漁法の保存継承に欠かせない船頭に関し、次代を担う人材を継続して育成。 ○屋形船(若あゆ丸)の改修に伴う高質な商品の造成 <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の屋形船改修に伴い、高単価で高付加価値のある商品造成を進めた。 ●その他(効果) <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川うかいを伝統文化として保存し、観光資源として活用できた。 ・活用することにより、観光振興、観光誘客の促進が図られた。 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・鵜飼・保存活性化事業委託料 9,702,269円 ・鵜舟・屋形船出船業務委託料 9,504,330円
事業の成果・効果	<p>「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であり、重要な観光資源である。鵜飼観覧者数は、令和5年は新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあること、比較的天候にも恵まれたことから、前年比21.6%増の16,722人となった。</p> <p>船頭育成事業については、引続き訓練を実施することができ、木曽川うかいの保存・継承のための取り組みの成果があった。</p>

II : 個別事業内訳

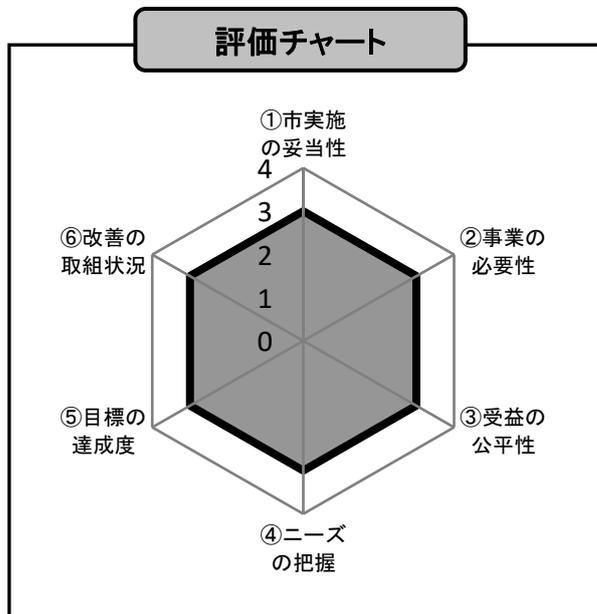
(単位:千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
一般管理	30,757	30,757	0	0%	3	3	3
予備費	0	0	0	-	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,757	30,757	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		26,244	30,757	35,028
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	26,244	30,757	35,027
	一般財源	0	0	1
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定の文化財である木曾川鶺鴒漁法について、保存継承していくものであり、市が主体的・継続的に実施すべきものである。
②事業の必要性	3	市指定の文化財である木曾川鶺鴒漁法について、保存継承していくものであり、経済状況に関わらず継続的に実施すべきものである。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民鶺鴒は、市民により身近に感じてもらえる鶺鴒を目指し、毎年実施している。令和5年度も多くの方にご応募いただきニーズがあると認識している。
⑤目標の達成度	3	船頭育成事業については、継続的に実施し、鶺鴒舟の船頭である、とも乗り中乗りともに成長している。木曾川河畔の活性化にも鶺鴒は貢献し、城下町地区から木曾川河畔への誘客にも貢献している。
⑥改善の取組状況	3	当市所有の屋形船である「若あゆ丸」の高質化改修に加え、座敷鶺鴒の演目及び演出設備の見直しを実施したことで歳入増を目指していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	市所有の屋形船である「若あゆ丸」の高質化改修後、新たな利活用による料金体系を構築し、屋形船を活用した高質な観光コンテンツの造成を進めた。また、鶺鴒実演の演目の見直しを検討。内容を充実させた高質化仕様の設えとなるよう取組みを進めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	高質化された屋形船の積極的な営業を木曾川観光(株)と連携し進めていき、鶺鴒観覧を始めとする川遊びの高質化を進め、市の歳入増にも努めていく。また、鶺鴒実演を高質化した座敷鶺鴒は令和6年度に披露し、市の歳入増に努める。
今後見直しを検討する事項	鶺鴒舎を始めとした施設の老朽化に伴う更新検討、鶺鴒匠の後継者問題など、木曾川うかい事業の保存・継承・活用のため、見直し、改善すべき事項は多くある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鶺鴒舎や鶺鴒小屋、鶺鴒トラックなどハード面の老朽化に伴う更新。鶺鴒匠・船頭など後継者についてのソフト面での課題など。	木曾川うかいは市の貴重な文化財であり、重要な観光資源である。今後も継続して発展する為には、鶺鴒舎の建替えなど、施設の適切な更新が必要であり、随時検討を実施していく。また、鶺鴒匠の後継者の課題については、今後4年の間に方向性を定めることとしており、雇用・育成の在り方も含め検討を進める。